

| | |
|--------|--|
| テーマ | 数学的モデリングのサイクルと統計的探究プロセスにもとづく高等学校数学科授業研究 |
| 発表者 | 松寄昭雄（埼玉大学）、上田凜太郎（東京都立工芸高等学校）、 裕元新一郎（静岡大学） |
| 指定討論者 | 池田 敏和（横浜国立大学） |
| 趣旨及び概要 | <p>2018～2021 年の春期研究大会では、モデリング研究と統計教育研究の双方の関連を通じた創成型課題研究を展開してきている。2020 年は小学校算数科授業研究、2021 年は中学校数学科授業研究に焦点を当てて、双方の研究の立場から児童・生徒の問題解決の様相や授業デザインなどについて分析・考察を行った。本創成型課題研究では、これまでの知見と反省にもとづいて高等学校数学科授業研究に焦点を当てて進めていく。検討すべき課題は、以下の 2 点である；</p> <p>(1) 数学的モデリングのサイクルと PPDAC サイクルにもとづいて、生徒の問題解決の諸相を記述したとき、どのような異同があるのか</p> <p>(2) 数学的モデリングのサイクルと PPDAC サイクルにもとづく算数・数学の授業デザインや単元構成プランはどうあるべきか</p> <p>授業者である上田が、高等学校における数学授業の概要説明と授業研究の実際について報告する。次に、松寄が数学的モデリングのサイクルにもとづく算数科・数学科授業研究について報告し、裕元が PPDAC サイクルにもとづく算数科・数学科授業研究について報告する。そして、指定討論者である池田が、双方の研究の視点にもとづく算数科・数学科授業研究を通じた、今後のモデリング研究と統計教育研究の方向性について検討する。</p> |